

# 防災アンケート（事例）分析結果（１～３回目）

## ●アンケート結果の要約（揭示物記載）

### １回目（Ｒ 7． 3 月）

- ・必要なものを準備して、逃げる準備をする。
- ・防災バッグを持ち、危険な場所を避けて避難する。
- ・雨が止んだら、避難準備をして、高い場所に避難する。
- ・決めている避難先へ近くの家や地区の人と一緒に向かう。
- ・近所の人と協力して、安全に避難する。

### ２回目（Ｒ 7． 6 月）

- ・まず自分の身を守り、安全な場所や高い場所へすぐに避難する。
- ・防災バッグや必要なものを持って、事前に家族で決めた避難所や近くの避難所に落ち着いて避難する。
- ・川や崖、土砂災害の危険がある場所を避け、安全な避難経路を確認しておく。
- ・近所や知り合いの大人と協力し、伝言やメモを残して自分の居場所を伝える工夫をする。
- ・日頃から防災マップや避難場所を確認し、家族で避難方法や連絡手段を話し合っておき、災害時に行動する。

### ３回目（Ｒ 7． 9 月）

- ・迷わず安全な場所へ避難する。家の外に危険がないかを確認して行動する。
- ・川や山の近くを避けて、避難所や高台、家の２階などの安全なところを選び、ハザードマップや家族で決めた場所を確認しておく。
- ・非常食や水、必要なものを入れた防災バッグを用意しておき、すぐ取って逃げられるところに置いておく。
- ・家族や近所の人と協力する。妹や弟、お年寄り、ペットも一緒に行動し、みんなの安全を守る。
- ・家族や近所の人に「どこに避難するか」伝えたり、スマホで連絡や紙に書いたメモを家に置き、居場所を伝えて避難する。

## ●変化の傾向

### ①行動から思考への深化

最初は、「逃げる」という動作中心だったものが、次第に「安全確認」「連絡」「協力」など、考えて行動する内容に発展している。

### ②主体性の向上

１回目は指示を待って行動する表現が多いが、２～３回目になるにつれて「迷わず」「すぐ」「確認しておく」「置いておく」など、事前準備への意識や自ら判断・準備する姿勢が強くなっている。

### ③具体性の増加

抽象的だった避難行動や備えが、２回目では「近くの避難所」「防災バッグ」、３回目では「ハザードマップ」「スマホ連絡」「さくらドーム」「エスペランサ」「非常食や水、必要なものを入れた防災バッグ」など具体的で現実的なものになっている。

### ④共同意識の拡大

個人⇒家族⇒地域（近所の人）などと、関わる範囲が広がり、「みんなで協力して、身を守る」「みんなで助かる」という意識が定着してきている。

## ●比較・分析

観点	1回目	2回目	3回目
避難の姿勢	「逃げる準備」「避難する」などの行動中心	「自分の身を守る」「落ち着いて避難」など安全意識と冷静さを含む	「迷わず安全な避難」「安全確認」など判断力と自発性が協調
準備・持ち物	「防災バッグを持つ」という基本的な準備	防災バッグに「必要なもの」と具体化	非常食や水、必要なものを入れた防災バッグをすぐに持ち出せる場所に置くなどの実践的工夫
避難場所・経路	「危険な場所を避ける」「高いところへ」などの大まかな場所	「川や崖、土砂災害の危険を避ける」「事前に確認」と具体化	「ハザードマップ」「家族で決めた場所」「さくらドーム」「エスペランサ」など実際の詳細
協力・連携	「近所の人と協力」程度	「知り合いの大人と協力」相手が想像できている	「家族・近所・妹弟・お年寄り・ペット」と『『お・か・し・も』を守って行動する』など助け合いの範囲が広がる
連絡・情報共有	記述ほとんど無し	「伝言やメモで居場所を伝える」が加わる	「スマホ連絡」「紙のメモ」「家に置く」などの多様な連絡手段に発展
平常時の備え	記述ほとんど無し	「防災マップの確認」「避難方法や連絡手段を話し合う」「防災バッグを準備する」などが加わる	「ハザードマップ」や「家族で決めた場所」の確認、「必要なものが入った防災バッグをすぐ持ち出せる場所に置く」などより行動的

## ●まとめ

- 1回目は「避難の基本行動」が中心（逃げる・準備する）である。
- 2回目は「安全確認と協力・連絡」が加わり、行動の幅が広がっている。
- 3回目は「事前準備・連携・判断力」が整い、自立的で実践的な防災行動計画に繋がっている。